

津波で藻場が大打撃

県内団体など宮城沿岸調査

2009年11月14日 → 2012年2月22日



津波による藻場の被害状況
 ※環日本海環境協力センターなどの資料から

漁師交え再生協議へ

東日本大震災による津波に襲われた宮城県沿岸で、ウニやアワビなどを育む海藻の群生場所・藻場が深刻な被害を受けていたことが、環日本海環境協力センター（富山市）や東京大などの調査で分かった。県北部の志津川湾では藻場が全滅した所もあり、十四日に同県南三陸町で地元漁師と再生へ向けた取り組みを話し合う。（住野千）



宮城県沖の洋上で調査する研究者ら
 ※環日本海環境協力センター提供

現地調査は、二〇一一年十月から始めた。水中カメラ撮影、音響計測などのほか、人工衛星に搭載したセンサーも利用。衛星写真を画像解析することで被害状況を広域的に把握し、藻の分布をマップ化した。

その結果、志津川湾では海底の砂や泥に生えるアマモが全滅、現在も回復していない。同様の傾向は女川湾や松島湾でもみられ、松島湾では二百六十四の藻場が消失していることが確認できた。

センターの辻本良研

究員は「海底には震災の地域では、震災の津波で海藻が海底から引き離されるなどの被害を受けた課題を指摘する。今後は無人の小型飛行機を使ってより詳細な解析を検討している。」

藻場が魚のすまいや産卵場所など生態系に欠かせない役割を果たすが、東北沿岸の多くは、震災の津波で海藻が海底から引き離されるなどの被害を受けた。

漁業や環境再生のためには、その状況把握が第一歩となることから、三井物産環境基金の助成事業の一環として、センターと東京大が調査に着手した。一年四月三月まで行う予定。